



Environmental

環境

地球環境の保全を最優先とし、低炭素社会の実現を目指します。

環境理念

当社は、地球環境及び地域環境の保全を最優先課題と捉え、緑あふれる地球を未来に残す責任ある一員として、「地球は我等の共通の広場なり」をスローガンに、環境に配慮した事業活動と地球環境保全の両立を目指します。

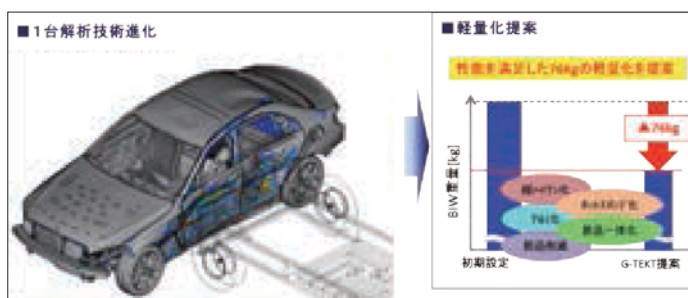
環境方針

- 1 あらゆる事業活動から生ずる環境側面への影響評価を行い、自主的な改善計画を策定し、積極的な環境保全に努めます。
- 2 関連する環境法規制、その他の要求事項を遵守し、自主管理基準を設定し、環境汚染の未然防止に努めます。
- 3 環境目的・目標・実施計画を設定し、継続的な改善を行うことにより環境への負荷を軽減し、環境と調和する事業活動を目指します。また、それらは必要に応じて見直します。
- 4 環境教育や啓蒙活動を実施し、全従業員及び当社で働く全ての人への環境方針の理解と情報の周知をします。
- 5 環境情報は社外へ開示いたします。また地域や社会との交流を図り、環境保全活動に積極的に協力します。

特定したマテリアリティ「環境配慮製品・技術の開発」対応

車の燃費は重量によって大きく左右されてしまいます。自動車の開発段階において、当社では独自の解析技術により、性能は落とさずにボディの軽量化を実現することで、環境負荷の少ない製品づくりを行っています。

一例ですが、モデルチェンジのタイミングでカーメーカ様に対して、約76kgの軽量化を提案することが出来ました。更なる軽量化を目指すとともに、これからも環境に配慮した製品・技術の開発を進めてまいります。



従業員の



VOICE



品質改善業務を通じた環境活動

生産本部 品質課 前林 舞

品質課では、日々現場で生産される製品が規格通りの品質を保たれているかのチェックをしています。この日常業務と地球環境がどのようにして結び付いているのか、初めは全くわかりませんでした。品質を保つという事は、不良品を出さないという事。要は廃却品を出さないという事なのです。これにより生産時のエネルギー使用量や鉄(資源)をムダにしないということにつながっているということに気づき、日々の仕事に取り組めるようになりました。

オールジーテクトでの環境マネジメント体制

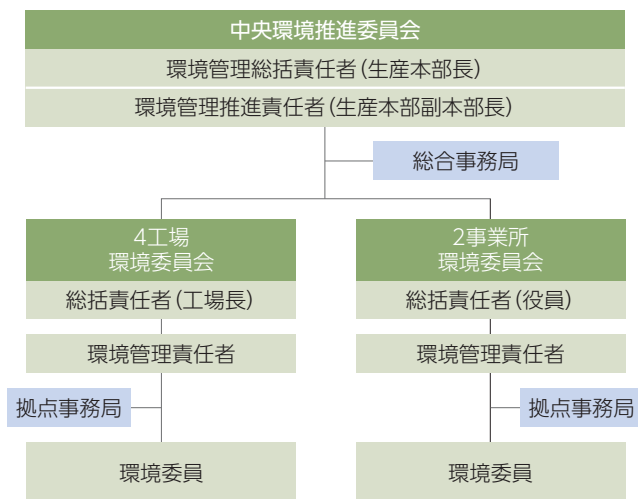
ジーテクトでは、地球環境問題を企業が取り組む最優先課題として考え、国内では、1998年からISO14001環境マネジメントシステム(EMS)の認証取得を進めて来ました。各工場はISO14001EMSの環境委員会を単位として、各工場長が環境管理総括責任者を兼任し、環境のコンプライアンスや改善活動を継続的に進めています。これに本社とC&C栃木の2事業所を加え、これらの上位組織として中央環境推進委員会を設置し、全社的な地球

環境改善活動に関する事項を統括しています。

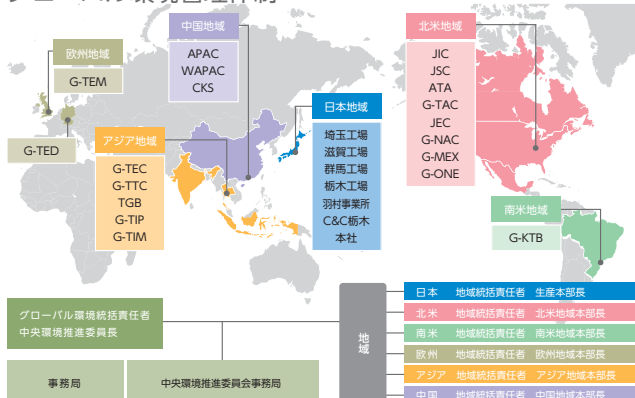
また、2014年6月より「世界環境安全会議」を定例開催し、各海外地域本部長を責任者として、グローバル全体における環境マネジメントの強化と情報共有に努めています。

なお、2017年4月からは「グローバルCSR会議」へと移行して活動を強化して参ります。

ジーテクト国内環境管理体制



グローバル環境管理体制



ISO14001認証取得状況

(取得年月、移行年月)

国内サイト		ISO14001:2004	ISO14001:2015
栃木工場		1998年12月	※2017年12月移行予定
埼玉工場			
羽村事業所1・2		1999年4月	2017年4月移行
羽村事務所			
滋賀工場		1999年4月	2017年4月移行
群馬工場		2004年12月	2016年12月移行
海外サイト		ISO14001:2004	ISO14001:2015
北米	JEC	2003年1月	※2017年11月以降予定
	JIC	2006年1月	※2017年秋頃移行予定
	JSC	2015年4月	※2018年中移行予定
	ATA	2009年5月	※2017年8月頃移行予定
	G-TAC	—	※2017年以降取得予定
	G-NAC	—	2017年3月
	G-ONE	—	※2017年6月取得予定
南米	G-MEX	—	※2017年9月取得予定
	G-KTB	2011年2月	2017年2月移行
欧州	G-TEM	2002年12月	※2017年9月頃移行予定
アジア	G-TIP	—	※2017年11月頃取得予定
	G-TEC	2001年1月	※2017年中移行予定
	G-TTC	2005年11月	※2017年中移行予定
	TGB	2006年2月	※2017年11月頃移行予定
	G-TIM	—	2017年1月
中国	APAC	2004年7月	2016年12月移行
	WAPAC	2008年1月	※2017年7月取得予定
	CKS	2009年2月	※2017年中移行予定

ISO14001登録証

埼玉工場
埼玉工場羽村事業所1・2
羽村事務所



G-TEKT環境ロードマップ

環境基本理念：「地球は我等の共通の広場なり」の実現へ

環境目的を定め、目標に向けた環境活動計画に基づき、継続的改善活動を推進しています。

【2020年Vision G4-20】

Green（環境・安全・社会貢献）
環境/安全に配慮した事業展開

【全社重点目標】

環境負荷と環境リスクの低減

【各事業所の環境目的】

1. 水質汚濁の防止
2. 工場騒音・振動の防止
3. エネルギー消費量の削減
4. 廃棄物の低減(3R)
5. 地域社会貢献

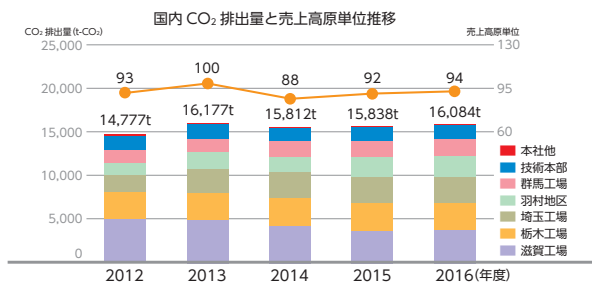
領域	内容	計画 / 実績	2014 年度	2015 年度	2016 年度	
生産	温室効果ガス(GHG)排出 売上高原単位の低減	目標	1%改善（'13年比）	2%改善（'13年比）	3%改善（'13年比）	
		実績	12.5%改善	8.1%改善	5.8%改善	
		評価	◎	◎	◎	
	グローバル環境管理体制強化	目標	・グローバルでの削減展開 ・環境データ精度UP	削減展開	削減展開	継続
		実績	・世界環境安全会議発足 ・海外環境データシステム構築準備	・世界環境安全会議にて 環境改善事例の共有化	・世界環境安全会議にて 環境改善事例の共有化	・世界環境安全会議にて 環境改善事例の共有化
		評価	◎	◎	◎	
環境 マネジメント	騒音振動、水質汚濁、土壌汚染、 大気汚染公害、廃棄物処理等の 環境問題を発生させない	目標	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	環境法令順守 社外流出、苦情件数ゼロ	継続	
		実績	環境問題ゼロ	環境問題ゼロ	環境問題ゼロ	
		評価	◎	◎	◎	
	ISO14001 EMS 2015 改訂版への移行	目標	準備	システム再構築	システム移行	
		実績	情報収集	システム文書見直し	埼玉工場・羽村地区、滋賀工場、 群馬工場の3サイト移行済み	
		評価	◎	◎	◎	
企業活動	生物多様性への対応	目標	取り組み指針の策定 準備及び活動展開	活動展開	継続	
		実績	・ガイドライン発行 ・活動開始	森林づくり活動、他の実施	森林づくり活動、他の実施	
		評価	◎	◎	◎	
	社会への発信	目標	環境(CSR)レポート 発行への準備	CSR報告書2015の発行	CSR報告書2016の発行	
		実績	情報収集及び準備	2015年6月初版発行済み	CSR報告書2016を発行済み	
		評価	◎	◎	◎	

◀ マテリアルフロー（※2016年度実績値）



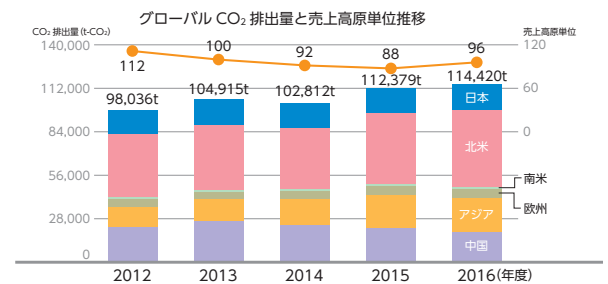
温室効果ガスの低減(国内)

国内でのCO₂排出量は、2013年度比で原単位(売上高当り)毎年1%の削減を目標に展開しています。2016年度は主要得意先の増産等により量産売上の増加があったものの全体の売上高の減少等により、2013年度比で原単位は5.8%の削減となり、CO₂排出量は93tの削減となりました。



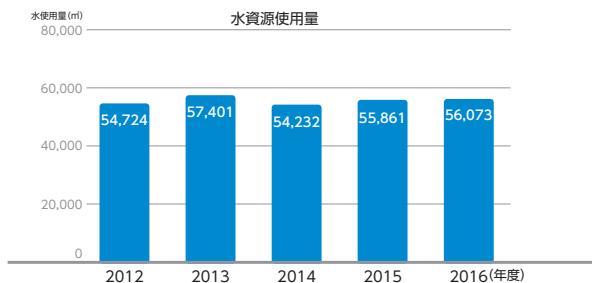
温室効果ガスの低減(グローバル)

グローバルにおけるCO₂排出量は、2013年度を基準に原単位(売上高当り)で毎年1%の削減を目標に展開を始めました。2016年度、欧州では主要得意先の増産、北米での堅調な生産によりCO₂排出量が増加。また為替の影響もあったことから2013年度比で原単位は4.1%の削減となり、CO₂排出量は9,505tの増加となりました。



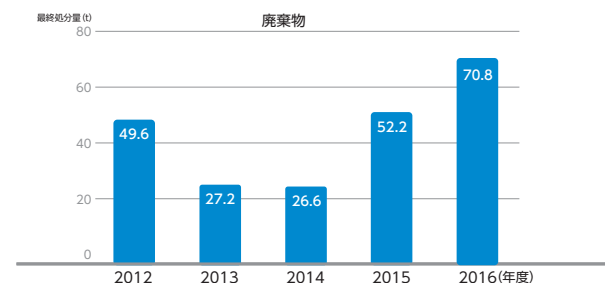
水資源使用量の低減

貴重な水資源の使用量低減活動から間接的に給水場のポンプ使用エネルギーの削減につなげています。また見える化により、構内の水道管水漏れ箇所の早期発見などにも役立てています。2016年度は、埼玉工場において冷却水水槽の補給水設備の故障を早期発見することが出来ました。



廃棄物の低減

不要物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)による廃棄物の低減を推進しています。下表は、最終埋め立て処分となる汚泥の中間処理前の引き取り量です。2016年度は、ホットスタンプの本格量産により増加しています。今後は、廃棄物発生低減に向け、脱水する装置を導入することを検討しています。



注) 数値は中間処理前の引き取り量

グリーン調達の実践

サプライチェーン全体での製造過程における環境負荷の低減をめざすグローバルなモノづくりを推進し、持続可能な社会の実現に貢献したいと考えております。グリーン調達は、この活動の一環として、積極的に環境保

全活動に取り組んでいるサプライヤーの皆様から、化学物質の適正使用、生態系の保全、環境負荷のより少ないプロセスを経て製品を調達することを目的として取り組んでいます。



環境改善取り組み

工場天井灯のLED照明機器への入替による消費電力の削減

埼玉工場は、2016年度より埼玉県目標設定型排出量取引制度の対象事業所となり、基準排出量に対し2019年度までの目標削減率毎年6%、年間240t-CO₂の排出量削減が求められています。これを達成すべく、工場の天井灯をメタルハライド照明からLED照明機器への入替を3期に分け計画し、2016年度はプレス棟176灯中40灯、溶接棟195灯中52灯を交換しました。




ソーラーパネル設置による、二重効果でのCO₂削減

中国のAPAC、WAPACでは、2015年1月より、国の制度に協力した屋根貸しによるソーラー発電の使用を開始。ソーラーパネル設置により、ソーラー発電効果（自家消費）と直射日光をカットする断熱層効果の二重効果があるため、中国地域のCO₂削減に大きく貢献しています。

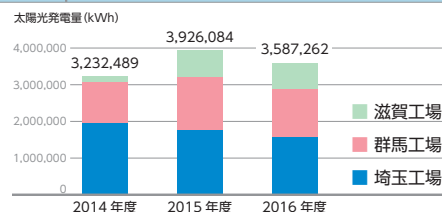


地球温暖化対策

地球温暖化対策の取り組みの一つとして、CO₂排出量を削減できる発電という観点から、工場の屋根上にソーラーパネルを設置し、発電事業を2014年から行っています。サブ効果として、屋根からの太陽熱を遮れるため、工場の室内温度上昇が抑えられ夏場の空調機器の負荷低減にもつながっています。

	埼玉工場太陽光発電所	群馬工場太陽光発電所	滋賀工場太陽光発電所
国内拠点			
系統連系開始日	2014年3月31日	2014年4月25日	2014年12月5日
太陽電池容量	1,605kW (245W×6,552枚)	1,306kW (245W×3,920枚, 250W×1,386枚)	602kW (245W×2,408枚)
最大発電出力	1,500kW (PCS: 500kW×3台)	1,000kW (PCS: 500kW×2台)	500kW (PCS: 500kW×1台)
2016年度発電量実績	1,594,517kWh	1,302,469kWh	690,276kWh
CO ₂ 換算量	805 t-CO ₂	658 t-CO ₂	360 t-CO ₂

太陽光発電量実績推移





ジーテクトの生物多様性の取り組み

ジーテクトでは、最重要課題である地球環境保全の中で、自社の事業活動が影響を及ぼす可能性のある「生物多様性」について、2014年度より「G-TEKT生物多様性ガイドライン」を定め、更なる取り組みに着手し始めました。

G-TEKT生物多様性ガイドライン

G-TEKTは、「G-TEKT環境理念」における「地球環境保全」の重要な取り組み課題として「生物多様性の保全及び持続可能な利用」を認識し、事業活動との両立を図っていきます。

重点取り組み

1. 環境先進技術の追求

業界TOPの環境負荷の低い商品開発と量産化により、生物多様性の保全に貢献していきます。

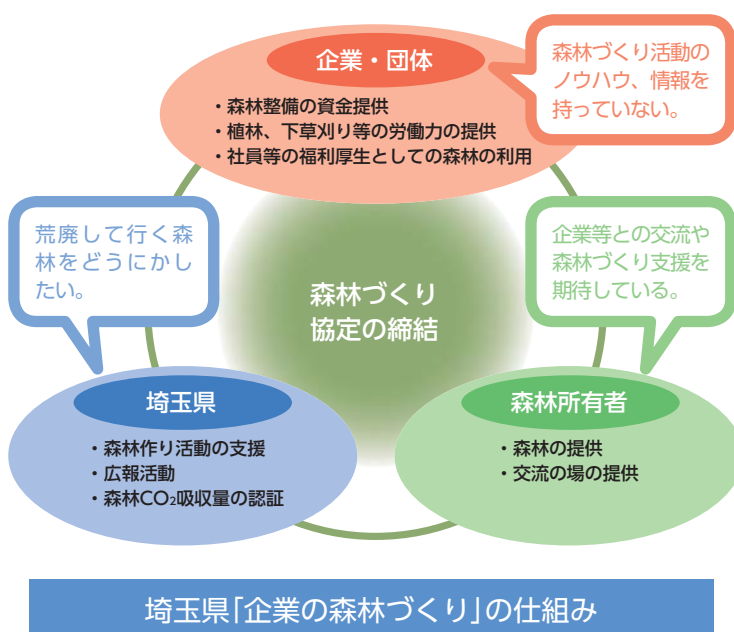
2. 事業活動における取り組み

生産効率向上の追求により環境負荷を低減し、生物多様性に及ぼす影響の低減及び持続可能な利用に努めます。

3. 地域社会とのコミュニケーション

地域社会と連携した環境保全活動並びに社会貢献活動に積極的に協力し、地域社会との交流を図っていきます。

■ ゴーテクトの^{もり}森林づくり



ジーテクトでは、生物多様性の取り組みの一環として、2014年から「企業の森林づくり」活動を開始しました。

「企業の森林づくり」とは、森林づくり活動の場所を提供する市町村等および活動を支援する県、森林づくり活動を行う企業・団体の3者が協定を結び、協力して森林づくりを行う取り組みです。

私たちジーテクトは、『未来の子どもたちに、緑あふれる地球を引き継いでいく』をスローガンに、この取り組みに参加しています。



弓立山山頂付近に設置している、埼玉県産木材を使用した看板

埼玉県森林づくり協定

協定の締結

[埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場]

2015年2月4日に「埼玉県森林づくり協定」を埼玉県、ときがわ町と締結しました。

活動実績

[埼玉県ときがわ町弓立山にて]

弓立山(標高420m)は2013年5月の森林火災により、約7.6haの焼失被害を受けました。この山を再生すべく、2015年4月よりジーテクトの森林づくり活動を開始しました。2016年4月23日には第3回「ジーテクトの森林づくり」植林活動を実施し、埼玉工場・羽村地区・本社・群馬工場の社員47名が参加して、ときがわ町の花「ミツバツツジ」や町の木「ヤマモミジ」等の広葉樹101本の植林を行いました。

また、10月1日には「第4回ジーテクトの森林づくり」活動を実施し、社員28名にて、苗木周辺の背の高くなった雑草を長柄刈払鎌を使って下刈を行いました。

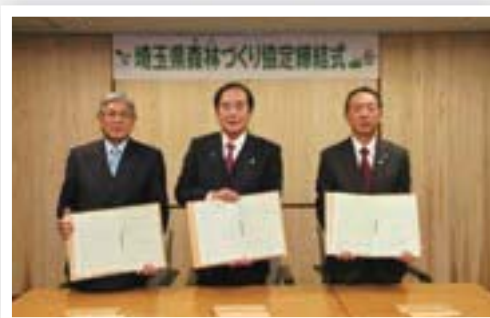
この他に、公益社団法人埼玉県農林公社と管理事業委託をしており、2016年度は合わせて、231本の植林実績となり、埼玉県より6.9t-CO₂の吸収量認証を受けています。

2017年度の活動予定

- ・4月 「第5回ジーテクトの森林づくり」植樹活動(実施済み)
- ・9月下旬 「第6回ジーテクトの森林づくり」下刈り活動予定



埼玉県森林CO₂吸収量認証制度



埼玉県森林づくり協定締結式
写真左から、(株)ジーテクト 菊池会長(当時社長)、
埼玉県 上田知事、ときがわ町 関口町長



「第4回ジーテクトの森林づくり」下刈り活動



記念植樹「ミツバツツジ」 高尾社長

琵琶湖森林づくりパートナー協定

協定の締結

[滋賀工場]

2014年12月10日に「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を滋賀県、大野山林財産区管理会と締結しました。

活動実績

[滋賀県甲賀市土山町大野山林にて]

2017年3月3日に「第3回琵琶湖森林パートナー」植林活動を実施しました。滋賀工場の社員15名が参加し、桜の苗木を15本植樹。また、鹿などの動物に荒らされないように周辺をネットで囲う作業を行いました。



「第3回琵琶湖森林パートナー」植林活動